

いるま

第40号

令和4年9月1日発行

題字・発行者

会長 比留間 英雄



実のある活動をめざし

副会長 加藤 匡代

三年近い外出規制が少し緩和され、行動範囲を広げている方も多いと思います。

入間支部十一の班ではそれぞれ活動を開始し、新しいことや改善すべき事をいかに実践していくかに努力を重ねている時でもあります。

本会最大の活動は総会です。過去二年「書面決議」でした。今年はどうするか。三月の本部会では「中止」も念頭にありました。三年連続の中止はなんとしても避けたいと実施に踏み切ったのが四月の末でした。総会担当の北地区は準備に追われた事でしょう。

五月九日。「しばらく」の声。会場に広がる笑顔。『顔を合わせるだけでも活動になる』の思いが達成され、大きな拍手により令和四年度がスタートしました。

ところで皆様は会報三十八号にはびっくりした事でしよう。「作品の窓」の見事さに目を奪われ、つい全紙を読み切ったとのうれしい声。カ

ラーの効果が最大限に発揮され、出品した方も満足したと思います。

限られた予算の中で、手に取り喜んでもらえる広報を考えると、工夫したのが半分だけカラー刷りにする事でした。

『読んでもらってこそその会報』会員をつなぐ太いパイプ役です。期待しています。

活動のもう一つは、福利厚生部が取り組んでいる研修旅行です。三年中止になり内容も知らない会員もいる事でしょう。互いに見聞を広め、親睦を深め、支部の団結を強める活動です。

バス移動にはまだ懸念もありますが、会員が参加してよかったと喜んでもらえる企画をと、委員は活動を始めています。うれしい限りです。

入間支部の活動がより充実しますよう、本部も心から応援してまいります。



定年延長について

西部教育事務所
所長 衛藤 一憲

入間地区退職校長会の皆様には、日頃より、入間地区の様々な教育活動の発展・充実のために御支援・御協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、御存じのとおり、令和五年四月一日から「定年延長」制度が施行されます。

改正地方公務員法における制度改正の主なポイントは、以下のとおりです。

①定年の段階的引き上げ（令和五年度から、二年に一歳ずつ定年を引き上げ、令和十四年度に定年年齢は六十五歳となり制度が完成）。②役職定年制の導入（組織の新陳代謝を確保し、組織活力を維持するため、上限年齢（六十歳）に達した管理監督職員を、翌四月一日までの間に管理監督職以外の職に異動）。③六十歳に達した職員の給与等（職員の給料月額額は、職員が六十歳に達した日後の最初の四月一日以後、七割水準に）。こうした国の制度改正を踏まえ、現在（令和四年六月末）、

県では制度運用の詳細について検討が進められています。今回の改正は、今後の採用、退職をはじめ、教職員の人事管理にも様々な影響を及ぼすことが予想されます。特に「役職定年制」については、特別の事由（公務への支障等）が認められる場合には、管理職への任用を延長できる「特例任用」も条例により適用できることとしてあります。こうした運用がどの様になるのかで、管理職の昇任人事にも影響が生じることにもなり、今後の対応状況について注視していく必要があります。

教育事務所としても、制度改正に伴う人事管理業務に関して、市町村教育委員会や学校への情報提供やサポートをしっかりと行つてまいる所存です。

退職校長会の皆様には、引き続き、御支援、御協力賜りますようお願い申し上げます。

結びに、入間地区退職校長会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を御祈念申し上げます。

令和四年度定期総会

～クラスター発生を回避して～

副会長 新井周平



総会風景

令和四年度の定期総会は、毛呂山班が担当し、慎重なコロナ感染防止対策をしたうえで三年ぶりに「ウェスタ川越」で開催された。代議員の出席者は八十六名中五十六名、総出席者数八十六名であった。来賓として、西部教育事務所長衛藤一憲氏、県退職校長会長石田孝作氏、入間地区小学校長会長井口修一氏、同中学校長会長沼田芳行氏、本会顧問井上清氏のご臨席をいただいた。

本部役員廣澤和夫、嶋田恵一朗両名の司会により、心の中で歌う国歌斉唱に続き、昨年度逝去された二十名の会員のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

比留間英雄本会会長のあいさつでは、今回のコロナ感染拡大のため教育活動をはじめ経済活動などに支障がでる中、本会の「新入会員交流のつどい」「教育推進研究協議会」「会員研修・親睦旅行」も開催できなかった。本年度は、諸行事の実施方法に工夫を加え、一部を除き再開をしていきたい。そのような中、変わらず発行できた広報紙「いるま」はカラー化が実現し、視覚的な読みやすさと会員相互の絆の深化に寄与できたと思っていると述べた。

更に、本会の主体は班であり、各班の課題や要望、提案や相談に寄り添い、魅力ある支部にしていきたいと抱負が述べられ、各班でも新しいアイデアを出し合って事業を展開していただきたいと期待を示した。

本年度の新入会員三十八名の紹

令和4年度 新会員紹介

38名(敬称略)

班	氏名	班	氏名
川越	金子正樹	飯能	岡野民嗣
川越	日出間毅	飯能	菅野昌司
川越	竹ノ谷勝	日高	新井均
川越	鈴木友子	毛呂山	飯島正康
川越	須田亮	坂戸	柴崎利美
川越	堤貴幸	坂戸	大川泰弘
川越	小熊利明	鶴ヶ島	真武公司
川越	長谷川郁代	鶴ヶ島	横山武仁
川越	吉田剛	鶴ヶ島	板橋三宏
川越	勢昌章	鶴ヶ島	竹本文男
狭山	鵜澤哲	鶴ヶ島	内野一男
狭山	井堀広幸	鶴ヶ島	松田仁
狭山	新井忠洋	鶴ヶ島	奥隅一之
所沢	宮井俊充	鶴ヶ島	永井淳仁
所沢	山下豊	入間	正高喜吉
所沢	佐藤佳岳	入間	篠塚清治
所沢	田中俊一	入間東部	児玉亮一
所沢	垣内眞哉	入間東部	榎本一夫
飯能	齋藤国明	入間東部	辻口幸恵

介が名簿でなされ、歓迎の言葉があった。代表あいさつは、予定されていた飯島正康氏が都合により出席できず省略された。

議長には毛呂山班の宮崎幸夫氏、古賀征一氏が選出され、書記に皆川好之氏、串田功氏が任命され議事が進められた。

令和三年度の事業報告は、定期総会をはじめ主な事業が中止あるいは書面会議・文書発表を余儀なくされた内容であった。同決算報告並びに監査報告とともに原案通り拍手で承認された。

令和四年度役員は、改選期でな

いたため一部班選出理事の交替のみで提案され拍手で承認された。

本年度の事業計画案は「会員研修及び親睦旅行」の中止の外は、平常の内容で提案され、予算案とともに原案通り拍手で承認された。

来賓祝辞では、衛藤所長から、学校現場の苦況としてコロナ感染症に起因する学級閉鎖、諸行事の中



止、対面授業ができないこと等が挙げられた。

行政の懸案事項として、ICT教育・ギガスクール構想とその環境整備、デジタル教科書の導入に伴う教員のスキルアップ研修事業の推進、教員採用試験や管理職試験への志願者の減少、教員の多忙化の解消、ヤングケアラーの問題等、多岐にわたり触れられた。

石田県会長からは、県の現在までの会員数は三七三五名で、これは全国で五本の指に入る大きな規模であること、その中で入間支部は県内最大の組織であることに触れられた。

次に、教育の注目すべき動向として、小学校の三十五人学級編制と教科担任制、女性管理職の割合の伸び悩み、教員の志願者の減少、教員免許更新新制廃止の動き、国家公務員の定年延長に伴う新入会員の途切れ、「教育の日」制定への全国的な運動の継続など十項目を指摘し懸念と期待を示された。

井口会長からは、先行き不透明な時代、管理職は足元をしつかり見つめ迷わないようにしていること、いじめ・不登校・コロナへの対応、学習保障など山積した喫緊の課題に対処していくと力を込めて話された。

沼田会長からは、マスクをして



席を離して

の教育活動は、互いに表情が掴みづらいし心も捉え難く、これまで以上に対話の大切さを痛感していること、諸行事を基本的な感染対策を徹底継続し、知恵と工夫で実施していくことなどが力強く話された。

井上顧問については、会の進行にご協力いただき紹介のみにさせて頂いた。

意見発表では、島崎利雄福利厚生部長から親睦旅行に関する残金の報告と、令和五年度は実施できるとの希望が述べられた。

埼玉県歌は割愛され、来年の再会を期し総会は閉じられた。

懇親会は、感染対策の一環として開催を見送ったが、久方ぶりの集い合いを喜ぶ会員の笑顔に満ちた爽やかな定期総会であった。

班だより

作品展

「毎日が青春！」

川越班 久保田 修平

作品展を開催して、令和三年度で十回目になります。八回、九回は、コロナ感染予防のため会場が使用禁止になり、開催準備は完了していたのですが、実施できませんでした。

今年度は市制施行百周年でもあり、市の冠付け事業の認可も取得し、会場を市美術館の市民ギャラリーに、開催期間も三月から四月に変更し、準備を進めてきました。お陰様で、コロナ感染予防対策を徹底して行うことにより、三年ぶりに開催できました。

①目的 「会員の作品を、一同に展示発表（鑑賞）することによって、交流と親睦を図るとともに、地域の文化振興に寄与する」としています。

②主催 市退職校長会ですが、退職公務員連盟川越支部の協力を頂いています。

③出品種目 絵画・書・写真・工芸・文芸・その他

④開催役員 毎年、実行委員を選出しています。退職校長会本部役員・会員からの実行委員選出・会員五年目の方々と構成しています。第四回作品展から実行委員長を木下重美氏に務めて頂い

ています。

⑤費用 市退職校長会の予算と退職公務員連盟川越支部からの助成金で全てを運営しています。

⑥出品者 近年会員だけでは作品数が減少してきているので、退職教員等にも積極的に呼びかけ、作品数の確保に努めています。

⑦開催PR 案内ハガキの配布（今年度は、出品者に十枚、全会員に一枚、各小中学校に一枚他）と市広報（開催一か月前）に開催お知らせの掲載を依頼しています。

今年度、第十回記念作品展として、無事に開催できたことは大きな成果です。反省点として作品に関連した懇親会が持てなかったこと、出品者数と作品点数の確保は、今後の大きな課題です。また、展示発表に終始せず、ギャラリートークなど出品者及び鑑賞者との交流を図ることなど、何点かありますが、会員の英知を取り入れ、目的を達成する取り組みにしたいと思っています。



川越市市制施行100周年記念

川越市退職校長会 第10回記念作品展「毎日が青春！」

好奇心、探究心は生きる源

狭山 志村純悦

「小人閑居して、不善を為す」。
退職直後、お世話になった先輩校長さんに頂いた言葉。以来十五年、心の片隅に留めて生きてきた。

これといった趣味も特技も持ち合わせていない私には、生きがいなどとは無縁の生活だった。

そんな中、まずは健康な生活が送れるよう、早朝の一時間超のウォーキングが一日の始まり。

第二は読書。退職してからは図書館に行く機会が増えた。藤沢周平、池波正太郎をはじめ、多くの作家の作品を読破した。なかでも「鬼平犯科帳」。大学の恩師曰く、「文句なしにおもしろい」「歯切れがいい」「ばかげた死が描かれていない」……。



算数スキルの時間

さらに此の頃は、現役時に購入し、積読状態にある本を片付けようと書斎に閉じこもる毎日だ。

第三に、少しでも地域のお役に立てればということで、小学校の学習支援、学校評議員、放課後子ども教室のお手伝いをするなど、学校応援団の一員として、地域の人達と一緒に活動している。

四つ目は、ライフワークに取り組む事。秩父中津峡のある中津川集落に旧家の幸島（さしま）家があり、平賀源内が自ら設計して建てた源内居がある。二年ほどそこに住んでいたことはご存じだろうか。その源内が鉾山開発のため秋田に向かった際、東北の小京都角館にて藩士・小田野直武に会って洋画を伝えた。直武の才能を見込んだ源内は、その後、杉田玄白に推薦し「解体新書」の解剖図を描く事になる。また直武は、秋田藩主・佐竹曙山とともに「秋田蘭画」を確立し、不忍池園などの有名な作品を残した。私は秋田生まれ、直武についてもっと知りたい。

解体新書を生み出した玄白、良沢、源内をはじめ、田沼意次、新井白石などのお墓の史蹟を訪ねる旅から研究を始めた。

「明日死ぬかのように生き、永遠に生きるがごとく学べ」
ガンジー

出会いから生まれた生きがい

川越 鈴木 登喜夫

現在の私のマイブームは、第九の合唱や大菊、黎の杖作り、写真撮影である。声を出すのは楽しいし、毎日、菊や黎の成長を見たり、写真を撮ったりするのが楽しみである。現役時代、ランニングくらいしか趣味がなかった私が、たくさんの人との出会いから、趣味が増え、それが、生きがいになっている。

私は、退職後、川越市シルバー人材センターの観光ガイドになり、仲間やたくさんのお客様との出会いがあった。御案内させていただいたお客様が持たれていた黎の杖に興味を持ち、作り始めた。このお客様は、家が近かったこともあり、頻繁に教える乞う尊敬するお師匠さんになっていただいている。物を作る事に興味がなかった私が、創作に励んでいるなんて、自分でもびっくり。

また、ガイド仲間から誘われて、早朝の歌の会や喜多院の第九の合唱団に入れさせていただいた。ドイツ語の発音に苦労しながらも、レッスンの日が楽しみである。

もう一つは、川越市退職校長会へ入会し、「生涯青春」のキャッチフレーズの



生涯青春

もと毎年開かれていた作品展の実行委員になった事が趣味を広げ、実行委員の仲間が「鈴木さんも、何か出したら。」と投げかけて下さり、始めたのが、写真。カメラ片手に出かける事が多くなりました。下手ながらも、黎の杖と共に毎年出品するようになった。

また、校長会の仲間と話す中で、大菊作りの御趣味を持たれている方との出会いもあった。御教示いただきながら、初めて、大輪の花を咲かせることができた時の喜びは、一入だった。

コロナ禍で、海外旅行はおろか国内を旅する事も敬遠しがちな時期に、身近な多くの方との出会いから、趣味が広がり、毎日の生活が充実して、私の生きがいになっている。まさに、「生涯青春」である。

がい

凡事を楽しむ

飯能 井上貢一

「趣味は？」と聞かれるとしばらく考えてから「ウォーキング（徘徊ともいう）」などと答えることが多かった。教頭時代から付け始めた万歩計はほぼ毎日一万歩以上をカウントしていた。また、現役時代から「飯能新緑ソーデーマーチ」にも参加し、何度か三十キロコースも歩き切った。

定年を迎えて平日にゴルフができるようになると、月に二回程度のラウンドが可能になってきた。極力カートに乗らずにフェアウェイ（ラフや斜面が半分以下だが）を歩くようにすると、一万五千歩前後歩けた。

六十五歳になり再任用期間が終



頑張って歩けたね

了したところで、友人の影響もあつて週三日、外仕事のアルバイトを始めたところ、歩数は二万歩前後になった。

そんな時に市の健康づくり支援課から、スマホを持って歩くだけで、ポイントが貯まると抽選で県産の農産物が当たるという「コバトン健康マイレージ」のお知らせがあり、一も二もなくアプリをダウンロードしてエントリートした。いくつかのグループに分けてその中でランクが出てきたり、飯能市で登録している人だけのランクが出たりもする。俄然やる気もわいてきた。

初日は一万四千歩余り。一週間の平均も一万二千歩余りで毎日一万歩以上歩けていた。ウキウキ気分でランキングを見に行くと、C12クラスで一九一六人中五〇二位。トップの人たちは平均三万六千歩以上歩いている。三万六千歩ということは約二十五キロ。毎日五時間以上も歩いていることになる。CクラスということとはAやBクラスもあるのだから、もっとすごい人たちがごろごろいるのだらう。

因みに飯能市で登録している人の最高は平均三万二千歩余りだった。これもすごい。

私のウォーキングは凡事だが、今後も楽しんでいきたい。

生き

気の向くままにやってみる

鶴ヶ島 岡野 弘

在職中、一校目は「さくら通信」、二校目は「未来に繋がる今を大事に」という題名で、教職員向けに校長室だよりを書いていった。先生方と直接話をする機会が思った以上にとれないため、何とか自分の考えを伝えよう

と始めたものだ。中身は、学校経営の方策や「学び合い学習」の考え方。学級経営のポイント、プライベートな読書記録や詩作、教えずとの思い出など。経験から学んだものだけでなく新しい情報も織り込み、思いつくまま一枚にまとめたものだ。気づくと三〇四号にもなっていた。

東京大学の池谷裕二教授による

と、人ははじめから「やる気」を持っているものではないらしい。「やる気」が出てくるのを待っていたら、一生何も始めることができないようにだ。まずやってみることから「やる気」は生まれてくるという。



ボールのゆくえは？

私自身、校長室だよりを書く中で面白さに気づき、続けることで「やる気」が増した。それが「やりがい」になり、気が付けば「生きがい」にまでなっていた。

自分が今も夢中になって続けているものは、すべてこの「やる気」の出し方と共通している。どれ一つとつても、人様に自慢できるものはないが、ゴルフしかり、読書しかり、カワセミの追っかけ、パワーポイントを使つてのアニメーションづくり、などなど。

今、大学医学部の事務部に週四日勤めている。少しの楽しみとほんのわずかな苦しみとが織りなす毎日が、間違いなく自分を刺激している。目の前のことを難しく考えずに、「まずやってみることで向き合おう」と心に決めて、今日もまた、玄関を出る。

会員の声

感謝と新たなスタート

川越 小熊利明

今年三月末をもちましてお陰様で三十七年間の教職生活を終了しました。入間地区退職校長会の皆様方には、市町村を越えて、大変お世話になり有り難うございました。六年間の校長職の間、生徒指導や不登校対策をはじめ、本当に多くのことについて温かいご助言をいただき、皆様方の教育に対する情熱、愛情、思いを日々胸に刻ませていただきました。厚く感謝申し上げます。この度、入間地区退職校長会で皆様と再び一緒に過ごしていただくこと、有り難く思っております。

退職して三か月となりましたが、音楽を学ぶ学生とともに改めて学校教育の基本と向き合いつつ、新たなスタートを切ったところです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



物づくりを楽しむ

毛呂山 小山恒夫

退職してからは時間に余裕ができ、好きなものを自由気ままに作るようになった。

最初に、芝生の庭の活用を考え、バーベキュー炉とピザ窯を作ることにした。本やネットで作り方を調べ、完成まで二か月かかった。二つともレンガを積んで作るが、ピザ窯の天井をアーチ状にするのに苦労した。今では家族や仲間との憩いの場になっている。

野菜づくりは現役の頃からやっているが、今では数十種類を育てている。苗は購入するものもある。種から育てるものもある。春から夏にかけては、虫と草との戦いである。特に草は手がかかり、ちよつと手を抜くとあつという間に大きくなる。どの野菜も一人前に育てるには手間がかかる。次は、囲炉裏作りに挑戦。

コロナ禍で・・・

坂戸 眞田好男

長引く新型コロナウイルスでも登山は続けた。私の中では、未知の日常から生まれる重い空気を払拭するには、最適だと思っていること。登山中に味わう様々な感動を帰宅

後に文字で表現する時間も、心を豊かにさせること等からだ。

後期高齢者の仲間入りを機に、やめようと思っていたその登山を今も週一回程度している。相変わらず公共交通機関不使用で……。

とは言え、体力(持久力)の衰えは隠せない。併せて、最近はお会う山野草の名前が、すぐに出ないことが増えた。そのため知っているはずのそれらに出会うと、その名前を言うようにしている。

コロナ禍、心身の健康維持を各人各様にされていると思うが、もう少しの間、私は私流でやってみたいと思っているこの頃である。

ずっと続けていける体力維持

入間 平野秀昭

退職後五年間、社会教育指導員として人権教育に携わりました。

完全に仕事を退き今年で四年目となりますが、体力維持の大切さを実感する毎日です。そこで、バドミントンのサークルに入会しました。三十年近く触れていなかったラケットを手に、澁刺とした気持ちで行くと、シャトルは思うように飛ばせず、何よりも動けない自分に直面しました。参加して二回目でも太ももの肉離れとなり、三週間あまり休まなければならなく

なりました。復帰してすぐアキレス腱を痛め、ひどく落ち込みましたが、今度は休まずに何とか続けて、一年半が過ぎたところです。

いつまでコートに立てるかかわりませんが、幾つになっても続けていける運動に、取り組みたいと思う今日この頃です。

健康オタク

入間東部 戸田一也

三十年前、人間ドックの後、医者から言われた「このままの生活態度じゃ大変なことになるよ」の一言が切っ掛けでした。

一念発起して「メタボ解消大作戦」をスタートさせました。普段の生活を根本から見直して少しずつ改善してきました。流行のダイエットもいろいろ試しましたが、肉、野菜、納豆やヨーグルトなどの発酵食品をバランスよく食べるのが一番のようです。

運動は走ったり歩いたり自転車に乗ったり色々やりましたが、今は無理をしないで一日二万歩を目標に動きまわっています。

体を動かすと食事がいしくなり、食べて運動すると疲れてよく眠れます。毎日、やって当たり前のことを一生懸命にやるのが一番いいようです。

少しだけボランティア

日高 山川治美

退職して九年が経ちます。

第二の人生を天からのご褒美だと思い「好きなことを好きなだけ」やろうとスタートさせましたが、それだけでは申し訳ない気がして少しだけボランティア（保護司）をしています。

その対象者は、少年から高齢者まで。刑事施設の仮釈放者などは思っていた以上にまじめ（私の個人的な感想）で、月に二回程我が家へ面接にやってきます。

我々と同世代の対象者も珍しくなく、正直複雑な思いです。再犯者も多く、薬物犯罪、性犯罪、財産犯など罪種も様々。受刑者の高齢化を実感します。

ところで、「好きなことを好きなだけ」の方は、コロナ禍で頓挫しがちです。健康寿命を考えると残念でなりません。

子どもの笑顔に癒やされて

飯能 浅見敏彦

定年退職してから六年が経ちました。その間の三年間、入間市の公立幼稚園に勤務することが出来ました。勤務中、県公立幼稚園としての研究会の開催やPTA連合会

の総会や研修会の運営に携わり、三年目には西部地区人権教育研修会の発表も行い、さらに閉園に向けての諸行事にかかりました。学校では経験できなかった多くのことを学ぶことが出来ました。現在は入間市教育委員会の要請で就学相談員として保育所、保育園、幼稚園、小学校の施設訪問をして、保護者との相談に応じています。訪問して、自分が幼稚園に勤務している時には気づかなかった指導の工夫や私立ならではの独創性を感じ、幼児教育の大切さを痛感しています。そして園児の笑顔に癒やされています。

将来の夢

所沢 宮井俊充

今年の三月末をもちまして定年退職をいたしました。あつという間に過ぎ去った三十八年間、本当に楽しい教員人生でした。私の宝物は、多くの教え子と同僚の先生です。もし、もう一度、就職を考えたとしても、やっぱり教員を目指します。中学校の卒業文集に「将来の夢」は、先生になりたいと書いたことを覚えています。

さて、今は初任者の指導教員をさせていただいています。校長という立場ではなく、一教諭となり、

人としての真の価値が問われている気がします。ラスト数年、今までの経験を少しでも伝えることが恩返しだと思います。

学校以外では、五人の孫との遊びと趣味です。休みの日は、ジムに行き体を鍛え直しています。今までの財産（肉）は手ごわいのです。

故郷は・・・

狭山 野沢康久

さいたま市で退職しましたが、初任から長くお世話になった狭山班の皆さんに温かく迎えていただき、早七年が過ぎました。感謝申し上げます。

二年前再任用を終えると同時に家庭の事情で県外へ転居することになりました。秩父・浦和・川越と場所が変われど、生まれてから郷土埼玉を離れたことはなく、引越後は、コロナ禍もあり心は埼玉のまま。野球といえば西武ライオンズ、サッカーは浦和レッズ、相撲は北勝富士など・・・まさに「故郷は遠きにありて想ふもの」といったところでしょうか。

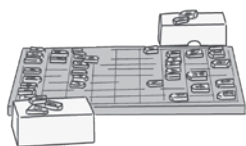
しかし、毎朝近くの小学校の防犯ボランティアとして子どもたちと挨拶していると、ここも良いなあと感じるようになりました。「住めば都」を実感しています。

将棋を続けて

川越 猪鼻幸正

教員になってからは、将棋の対局をすることはほとんどなく、詰将棋を解くことだけになりました。何日も解けないものが、一瞬の閃きであつという間に解ける感覚が何とも言えません。また、詰め手順を試行錯誤する思考過程は、将棋以外にも通じるところが多々あります。

そして今、定年退職から数年が経過し、時間だけは十分にあり、インターネットのおかげでプロ棋士の対局を朝から深夜まで視聴できます。十二時間を超える対局を見る人が予想以上にいることに驚きます。将棋ファンとしてはうれしい限りです。特に藤井聡太という若き天才将棋士の対局は圧倒的な人気があり、真摯に対局する姿勢に凄みを感じます。様々な状況の中で、若者の活躍は大きな元気を与えてくれます。





「晴れた朝」(水彩画) 川越 木下 重美



「青森県にんにくの里 田子町の民家」(水彩画)
坂戸 島田 知良

作品の窓



「一年に一度のご挨拶『龍』」
(シルクスクリーン)
入間東部 宮 陽一



「人形」(油彩画)
川越 利根川 栄子



「記憶の形」(油彩画)
日高 神保 雅春



「秋の訪れ」(押し花絵)
所沢 柳沢 栄子

発行 令和四年九月一日
発行者 会長 比留間英雄
越生町成瀬一四一
印刷所 六三四堂印刷株式会社

入間地区退職校長会会報
第四十号

コロナ感染対策に予断を許さない状況、不安定な世界情勢の中で、皆様からの活力あるご寄稿に安らぎを感じます。本紙が絆を深める一助となることを願ひ、委員一同心を込めて編集致しました。
ご高評を仰ぎます。(熊本)

編集後記

今般、支部の要望や現況を鑑み、各班の活動や連携、情報交換等に資するHPの立ち上げ(開設)のアンケートを代表理事に実施中。
内容 (1)県HP閲覧の有無
(2)各班のHP開設について
開設希望の有無、課題等々
回答結果は、次号にて報告予定。

入間支部各班のHPの
立ち上げについて

HP担当 嶋田恵一朗

入間支部のホームページ(HP)は年度対応の支部一括掲載。

県内の多くの支部では、多少差異はあるものの班ごとにHPを作成している。(県退職校長会他九支部HP参照)